



炭酸アパタイト系骨補填剤

医療法人社団山根歯科医院
理事長 山根 進

当院では、現在、「Arrow Bone アローボーン」を骨補填剤として使用しています。アローボーンはTCP (α , β TCP として骨の成分) 系の製品です。骨欠損部位に補填すると、時間が経過すると溶解するとともに骨に入れ替わり、骨造成を可能にします。さらに現在は炭酸アパタイト系の製品で、「Cytrans[®] Granules サイトランス[®]グラニュール」も新たに使用しています。アパタイト (ハイドロキシアパタイトとして歯の成分) 系の骨補填剤は多く製品と出ていますが、欠損部位に補填しても吸収しません。アパタイトの周囲には骨ができます。体内に吸収せず、稀に感染して排出を余儀なくされることもあります。それに加えて、炭酸系アパタイトは吸収して、骨に置換していきます。国の承認を受け、インプラント適用が認可されています。改めて「サイトランス[®]グラニュール」の特徴を言いますと、1) 吸収して自家骨に置き換わる。2) 歯科領域で用いることができる。口腔外科や歯周外科での欠損部位やインプラント埋入部位の補填に使用できる。3) 上下顎骨、歯槽骨の欠損に補填できる。4) インプラントの露出した欠損部位に補填できる。5) インプラントを埋入しようとしても、欠損部位が大きすぎて、固定できない場合、すなわち、インプラント埋入を前提に大臼歯の抜歯窩などの大きな欠損部位に補填して、数か月後に自家骨ができた時点で、インプラントを埋入することができる。6) 欠損部位にインプラントを埋入、固定できても、隙間がある場合、インプラント埋入と同時に補填して、隙間を埋めることができる。術式は今までの骨補填剤と同じであります。骨欠損部位に補填剤を補填して、その上を補填剤の粒子が流れ出ないように特殊な膜 (遮蔽膜) で覆い、粘膜縫合をします。それから少なくとも6か月から1年経過してインプラントを埋入することになります。

炭酸アパタイト

溶解して自家骨

サイトランス[®]グラニュー